
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2009年第21週
(5月18日～5月24日)

- * 2009年5月27日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2009年4月)の疾患と感染症豆知識「細菌性髄膜炎」も掲載しています。
- * オセルタミビル(タミフル)耐性ウイルス株の検出状況は15頁に掲載しています。

平成21(2009)年5月28日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2009年21週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		18週	19週	20週	21週		21週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	91	28	80	66	1526	288	9754
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1 鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ							2
	細菌性赤痢	1		1		13	3	72
	腸管出血性大腸菌感染症	1		3	3	26	45	432
	腸チフス					7		13
	パラチフス					3	1	7
四類	E型肝炎					3		16
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1		1		5	4	42
	エキノкокクス症					1		9
	黄熱							
	オウム病			1		1		5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							1
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					2	2	59
	デング熱	1				8	1	27
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						3	12
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1				12		23
野兔病								
ライム病								
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症					21	10	224	
レプトスピラ症							2	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		18週	19週	20週	21週	年累計	21週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	1	5	1	56	9	329
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)		1			18	2	81
	急性脳炎 *2				1	10	2	94
	クリプトスポリジウム症					1		2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1		8	4	46
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					5	1	51
	後天性免疫不全症候群	5	2	4	12	185	14	557
	ジアルジア症				1	15	1	33
	髄膜炎菌性髄膜炎							7
	先天性風しん症候群							
	梅毒	4	1	1	4	85	8	271
	破傷風			1		3	3	31
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1			1	5		35
	風しん					4	1	76
麻しん	5	2	4	6	50	19	364	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3				3	3	276	337
2009/5/27計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。確定症例数を掲載する。

※3全国集計は5月25日12:00現在の国内発生の累計値(検査対象者を含まない。)

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 66件 肺結核37件、その他の結核12件、肺結核及びその他の結核3件、無症状病原体保有者10件、疑似症患者4件で、推定感染地は国内64件、韓国1件、国外(渡航先不明)1件、年齢は10歳代1件、20歳代5件、30歳代9件、40歳代8件、50歳代7件、60歳代11件、70歳代11件、80歳代13件、90歳代1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 3件 患者2件、無症状病原体保有者1件で、血清型・毒素型はO157(VT1VT2)2件、O91(VT1)1件、年齢は10歳代1件、20歳代1件、30歳代1件であった。

〈四類感染症〉

四類感染症の届け出はなかった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 腸管アメーバ症1件で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(不明)であった。

急性脳炎 1件 病原体不明で、年齢は5歳未満であった。

後天性免疫不全症候群 12件 無症候キャリア8件、AIDS3件、その他1件で、無症候キャリアおよびその他の年齢は30歳代4件、40歳代4件、50歳代1件で、AIDS患者の年齢は20歳代1件、30歳代1件、60歳代1件であった。推定感染地は国内11件、国外(渡航先不明)1件、推定感染経路は性的接触10件(同性間7件、異性間3件)、静注薬物使用1件、不明1件であった。

ジアルジア症 1件 推定感染地はマラウイで、推定感染経路は経口感染であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症候2件で、推定感染地は全て国内、推定感染経路は全て性的接触(同性間3件、同性間及び経口1件)であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 菌血症の症状を呈し、血液から菌が分離・同定されている。

麻しん 6件 麻しん6件(検査診断例4件、臨床診断例2件)で、年齢は10歳未満3件、20歳代1件、30歳代2件。麻しん含有ワクチン接種歴は1回3件、不明3件であった。

〈新型インフルエンザ等感染症〉

新型インフルエンザ 3件 全て患者(確定例)で、年齢は10歳代1件、20歳代1件、30歳代1件。推定感染地は国内(大阪府)1件、国外(アメリカ)2件であった。

※第20週該当分として、五類 アメーバ赤痢1件(腸管アメーバ症、同性間性的接触)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2009年21週

定点種別	対象疾患	2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		18週	19週	20週	21週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	0	4	8	5	0.03	147	150
	咽頭結膜熱	32	24	45	45	0.31		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	277	149	281	297	2.02		
	感染性胃腸炎	1,016	672	867	829	5.64		
	水痘	133	162	174	192	1.31		
	手足口病	12	10	20	22	0.15		
	伝染性紅斑	36	22	45	55	0.37		
	突発性発しん	99	58	90	110	0.75		
	百日咳	5	1	1	4	0.03		
	ヘルパンギーナ	6	3	9	13	0.09		
	流行性耳下腺炎	106	93	143	136	0.93		
	不明発しん症 (注1)	7	7	13	20	0.14		
MCLS(川崎病) (注1)	1	0	1	0	0.00			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	474	175	127	159	0.55	287	290
眼科	急性出血性結膜炎	3	1	2	0	0.00	38	39
	流行性角結膜炎	16	14	12	13	0.34		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	1	0	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	9	1	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	4	4	8	7	0.29		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	3	0.13		

2009/5/27集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。今年に入ってから過去5年平均と比較して高いレベルで推移している。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して依然として高いレベルで推移しており、引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

みなと保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:26名中、ロタウイルス2名。

*迅速診断キットを用いたインフルエンザに関する検査結果は、13頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年21週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月				7	3			3		1
～11か月	3	1		67	7	3	2	54		2
1歳	2	14	7	118	34	8	1	43		4
2歳		8	17	86	34	3	4	8		1
3歳		8	25	97	34	3	8	2	1	
4歳		3	41	85	32	1	10			
5歳		1	47	66	19		5			1
6歳			55	41	12	1	3			1
7歳		1	24	36	7		8			1
8歳		5	31	27	7	1	5			
9歳			11	30	2		4			
10～14歳		2	24	68			4			2
15～19歳				18			1			
20～29歳		2	15	83	1	2			3	
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	5	45	297	829	192	22	55	110	4	13
先週比	-3		16	-38	18	2	10	20	3	4

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月						
～11か月	1	4		3		
1歳	3	5		8		
2歳	11	4		8		
3歳	15	1		8		1
4歳	25	2		6		
5歳	23	1		5		
6歳	12			7		
7歳	14			3		
8歳	11	1		5		
9歳	6			11		
10～14歳	8	1		34		1
15～19歳				16		1
20～29歳	7	1		25		6
30～39歳				9		2
40～49歳				4		1
50～59歳				2		1
60～69歳				2		
70～79歳				2		
80歳以上				1		
合計	136	20		159		13
先週比	-7	7	-1	32	-2	1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年21週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		1
2歳		
3歳		1
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		1
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		1
30～39歳		2
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		6

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年21週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	4									
中央区			8	8	3	1		2		
みなと		13	8	30	19		5	8		2
新宿区		1	11	24	6	1		3		1
文京			6	9	4		2	2		3
台東		3	5	39	1			1		
墨田区			1	18	1			4		
江東区		1	14	64	2	5	1	4		
品川区		1	12	30	10	1	6	7		1
目黒区			6	17	2		3	6		1
大田区		5	11	72	26	1	4	6	2	1
世田谷			9	46	5		13	4		
渋谷区			6	13	1			1	1	
中野区			5	42	3			2		
杉並		1	7	48	8			6		
池袋				7	3	1				
北区			1	20	2		1	3		1
荒川区			3	19	4			2		
板橋区			2	20	2	1	4			1
練馬区			5	8	4	1		5		
足立			9	31	4	2	2	6		2
葛飾区			4	10	2			5		
江戸川	1	9	23	22	12	1	1	2		
八王子市		4	33	64	12		1	5	1	
西多摩		1	12	13	6	1		1		
南多摩		1	13	18	8	1		9		
町田			30	54	24	2	10	7		
多摩立川			8	15	5			1		
多摩府中		1	7	24	4		2	3		
多摩小平		4	37	44	9	3		4		
島しょ			1					1		
東京都合計	5	45	297	829	192	22	55	110	4	13

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2009年21週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	1			6		2
みなと	1			4		
新宿区	1	3				
文京	3			4		1
台東	1			4		
墨田区	4	1		3		
江東区	3	1		8		
品川区		1				1
目黒区						1
大田区	5	1		11		
世田谷	5			17		
渋谷区				3		
中野区	3			4		
杉並	2			6		
池袋				3		
北区	1	1				
荒川区		1		1		
板橋区	1			1		1
練馬区	1			5		1
足立				17		2
葛飾区	2	1		7		
江戸川	6	1		13		
八王子市	36	2		6		
西多摩	6			3		
南多摩	5			6		
町田	38	6		10		
多摩立川	1	1		4		
多摩府中	5			5		1
多摩小平	5			7		3
島しょ				1		

東京都合計	136	20	-	159	-	13
-------	-----	----	---	-----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		1
目黒区		1
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		1
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		1
多摩立川		
多摩府中		1
多摩小平		1
島しょ		

東京都合計		6
-------	--	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年21週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	1.00									
中央区			2.67	2.67	1.00	0.33		0.67		
みなと		2.17	1.33	5.00	3.17		0.83	1.33		0.33
新宿区		0.17	1.83	4.00	1.00	0.17		0.50		0.17
文京			2.00	3.00	1.33		0.67	0.67		1.00
台東		1.00	1.67	13.00	0.33			0.33		
墨田区			0.33	6.00	0.33			1.33		
江東区		0.25	3.50	16.00	0.50	1.25	0.25	1.00		
品川区		0.17	2.00	5.00	1.67	0.17	1.00	1.17		0.17
目黒区			2.00	5.67	0.67		1.00	2.00		0.33
大田区		0.56	1.22	8.00	2.89	0.11	0.44	0.67	0.22	0.11
世田谷			1.29	6.57	0.71		1.86	0.57		
渋谷区			1.50	3.25	0.25			0.25	0.25	
中野区			0.83	7.00	0.50			0.33		
杉並		0.17	1.17	8.00	1.33			1.00		
池袋				1.75	0.75	0.25				
北区			0.33	6.67	0.67		0.33	1.00		0.33
荒川区			1.50	9.50	2.00			1.00		
板橋区			0.33	3.33	0.33	0.17	0.67			0.17
練馬区			1.00	1.60	0.80	0.20		1.00		
足立			1.80	6.20	0.80	0.40	0.40	1.20		0.40
葛飾区			1.00	2.50	0.50			1.25		
江戸川	0.20	1.80	4.60	4.40	2.40	0.20	0.20	0.40		
八王子市		1.00	8.25	16.00	3.00		0.25	1.25	0.25	
西多摩										
南多摩		0.25	3.25	4.50	2.00	0.25		2.25		
町田			7.50	13.50	6.00	0.50	2.50	1.75		
多摩立川			1.33	2.50	0.83			0.17		
多摩府中		0.10	0.70	2.40	0.40		0.20	0.30		
多摩小平		0.67	6.17	7.33	1.50	0.50		0.67		
島しょ			1.00					1.00		

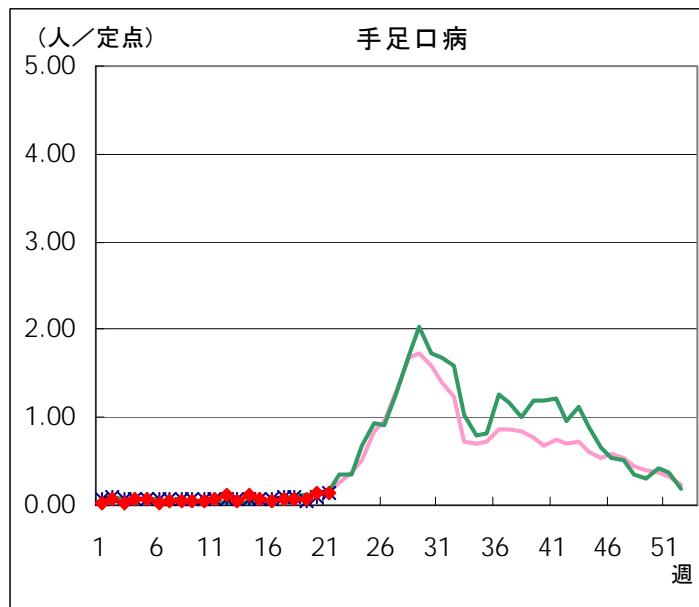
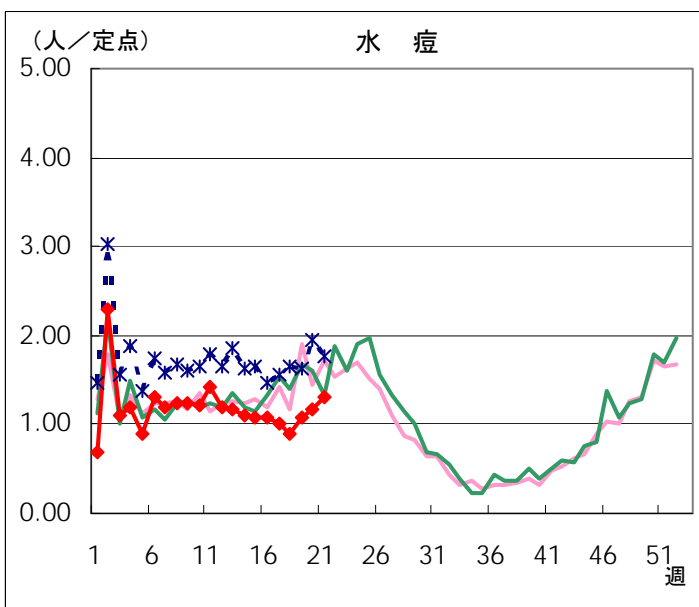
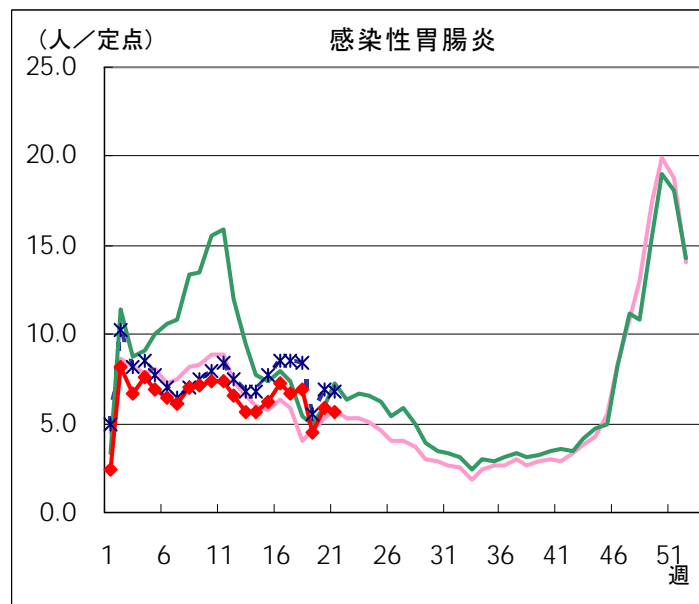
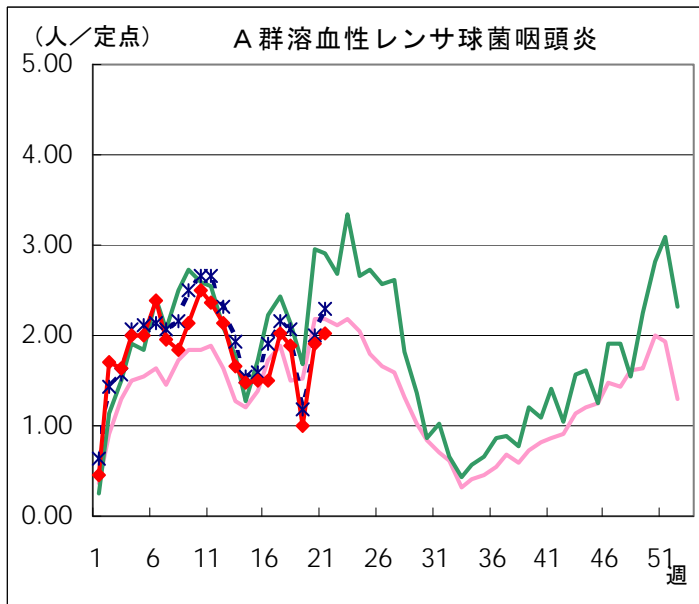
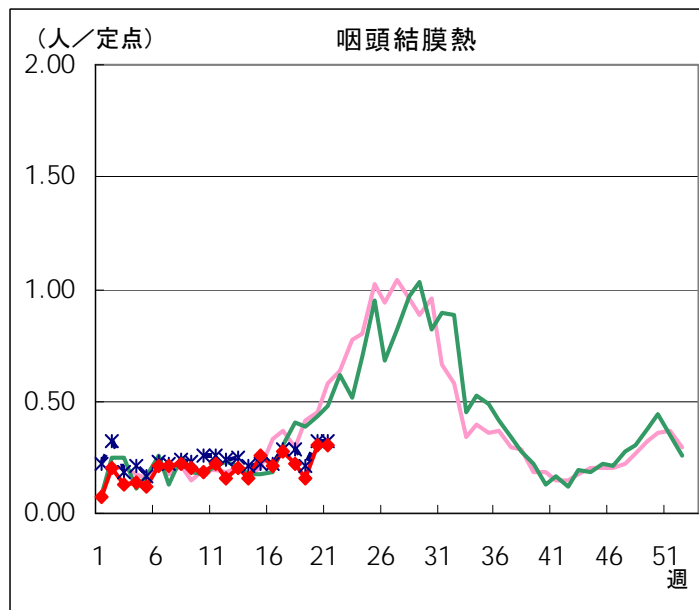
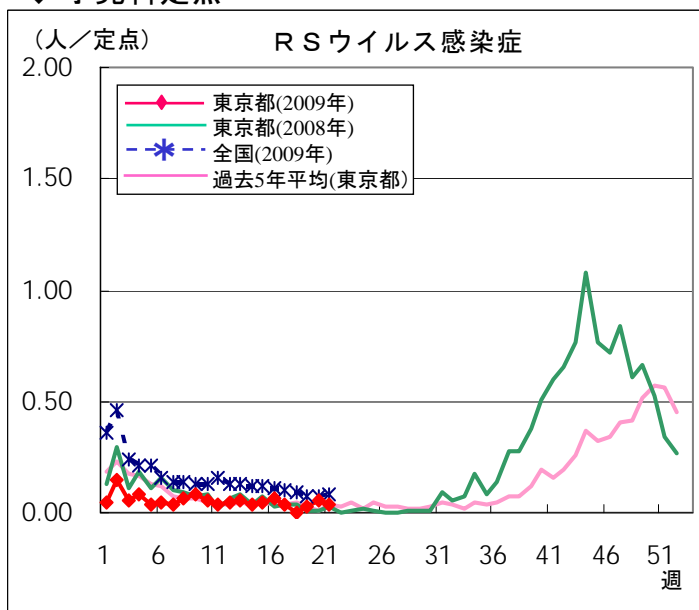
東京都	0.03	0.31	2.02	5.64	1.31	0.15	0.37	0.75	0.03	0.09
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

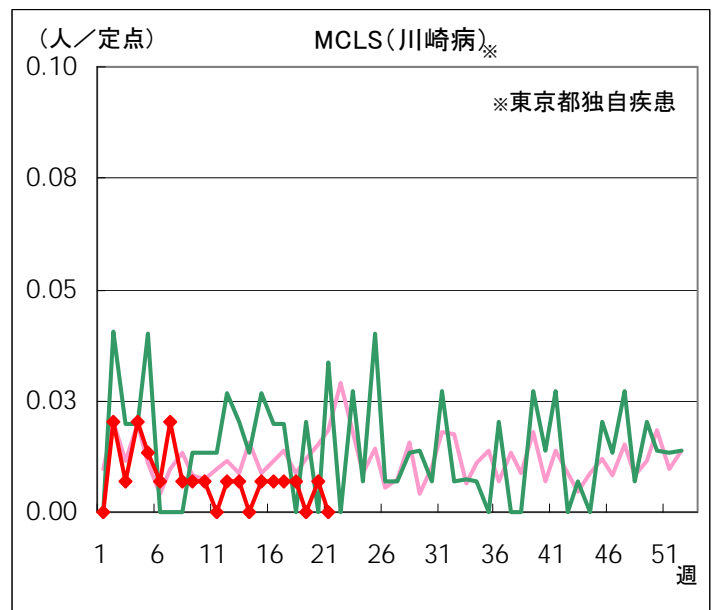
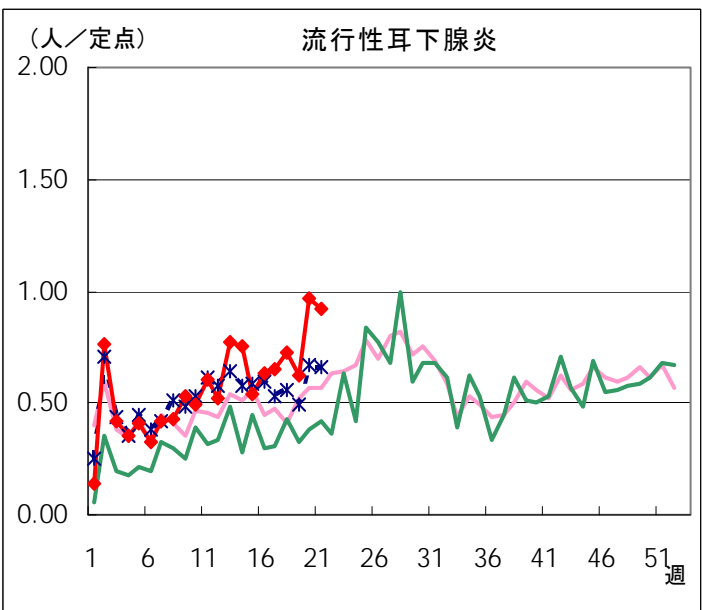
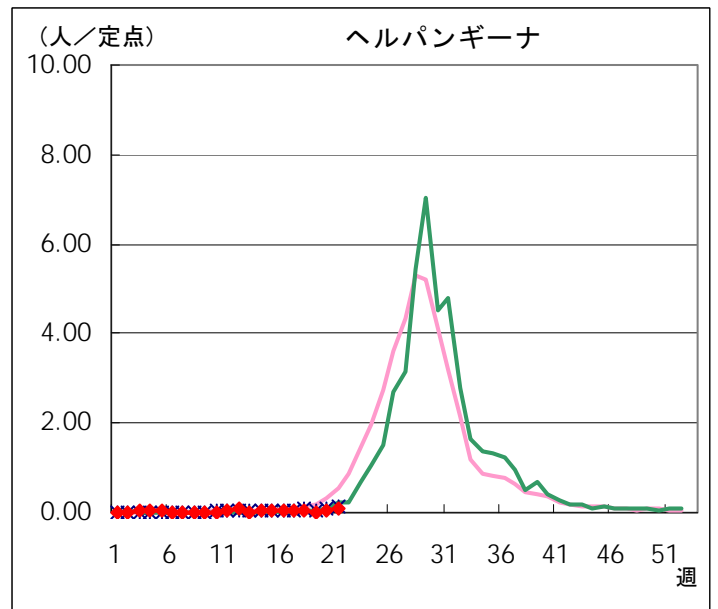
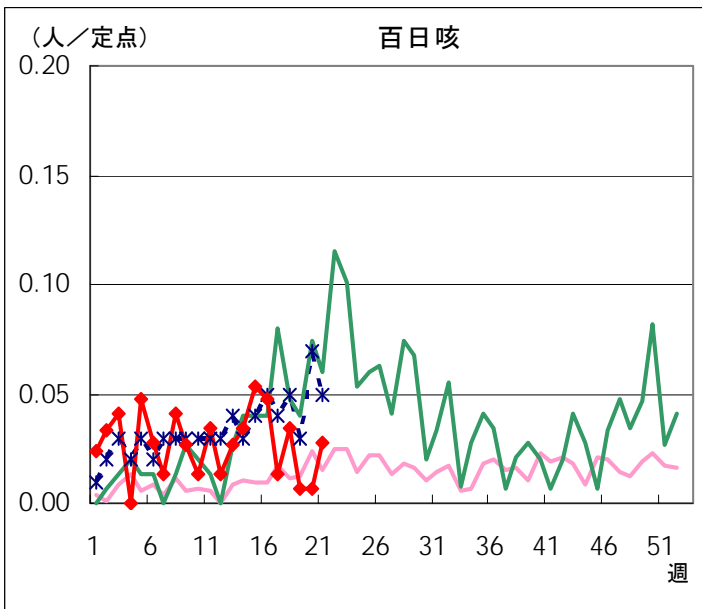
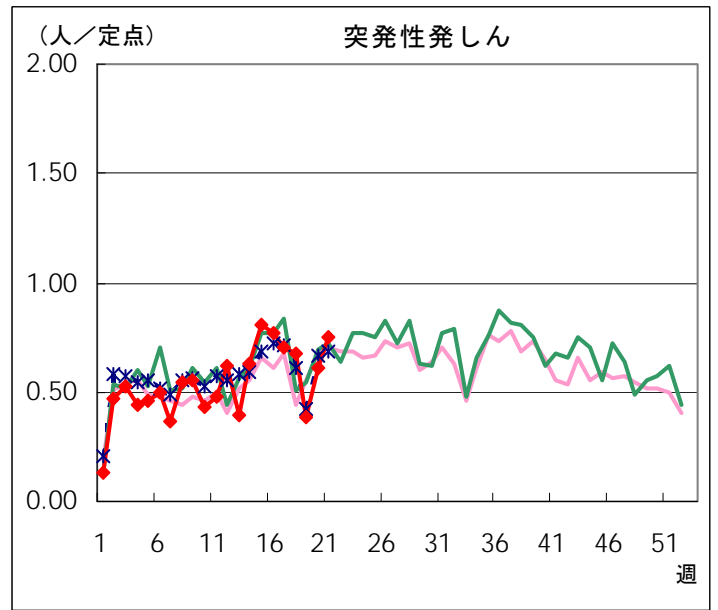
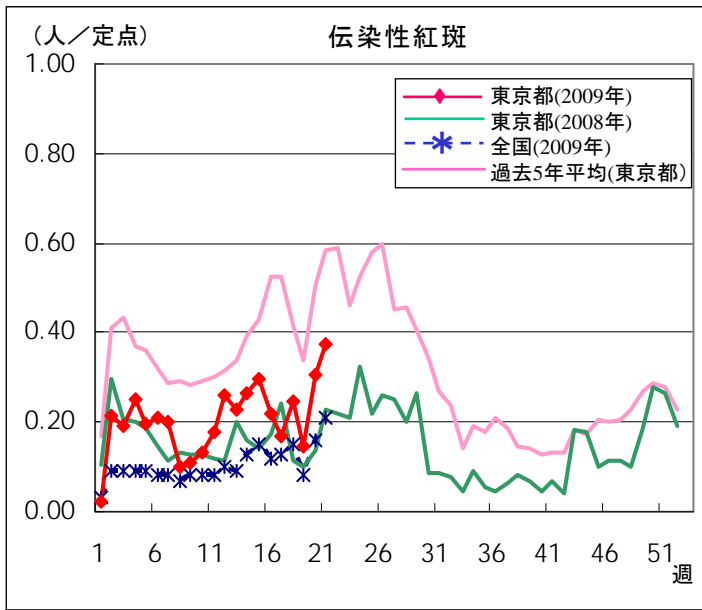
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	0.33			1.50		2.00
みなと	0.17			0.50		
新宿区	0.17	0.50				
文京	1.00			0.80		1.00
台東	0.33			0.80		
墨田区	1.33	0.33		0.50		
江東区	0.75	0.25		0.89		
品川区		0.17				1.00
目黒区						1.00
大田区	0.56	0.11		0.69		
世田谷	0.71			1.13		
渋谷区				0.50		
中野区	0.50			0.44		
杉並	0.33			0.50		
池袋				0.43		
北区	0.33	0.33				
荒川区		0.50		0.25		
板橋区	0.17			0.08		0.50
練馬区	0.20			0.42		0.50
足立				1.42		1.00
葛飾区	0.50	0.25		0.78		
江戸川	1.20	0.20		1.08		
八王子市	9.00	0.50		0.60		
西多摩				0.33		
南多摩	1.25			0.67		
町田	9.50	1.50		1.11		
多摩立川	0.17	0.17		0.31		
多摩府中	0.50			0.24		0.50
多摩小平	0.83			0.50		1.50
島しょ				0.50		

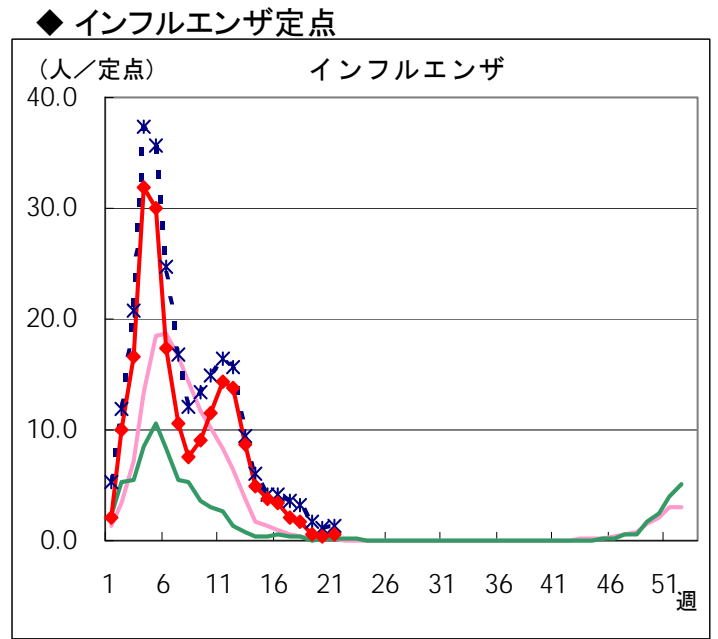
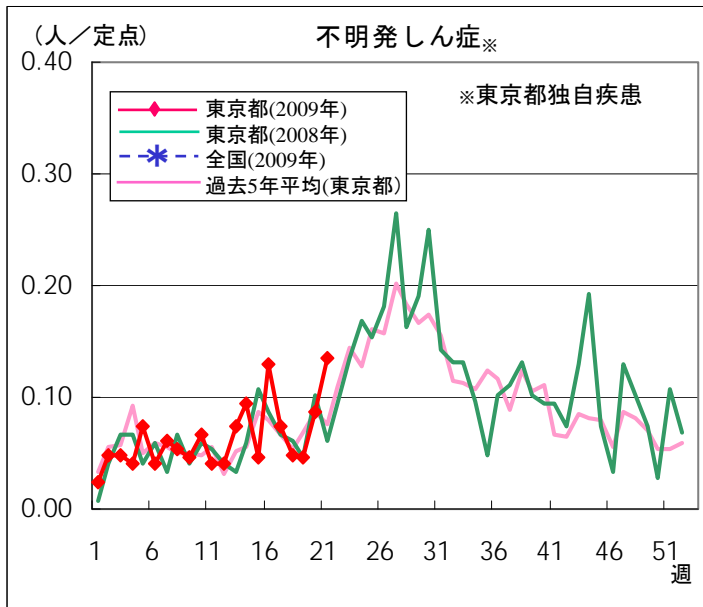
東京都	0.93	0.14	-	0.55	-	0.34
-----	------	------	---	------	---	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年21週現在

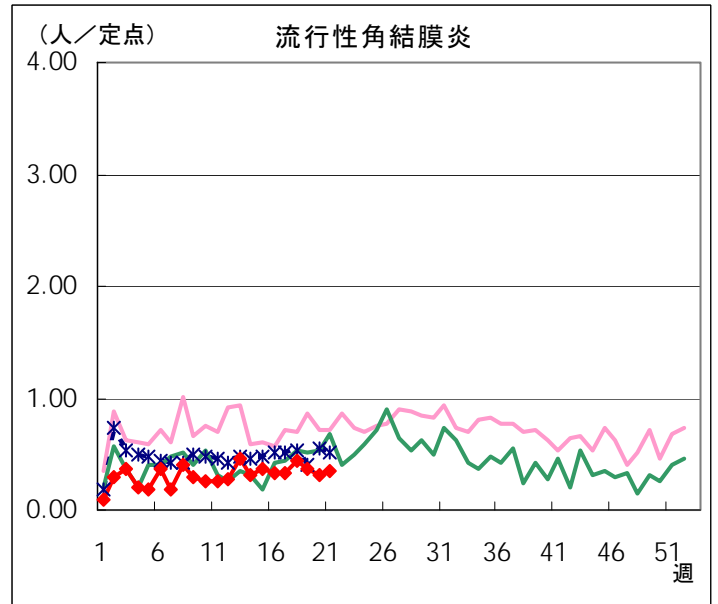
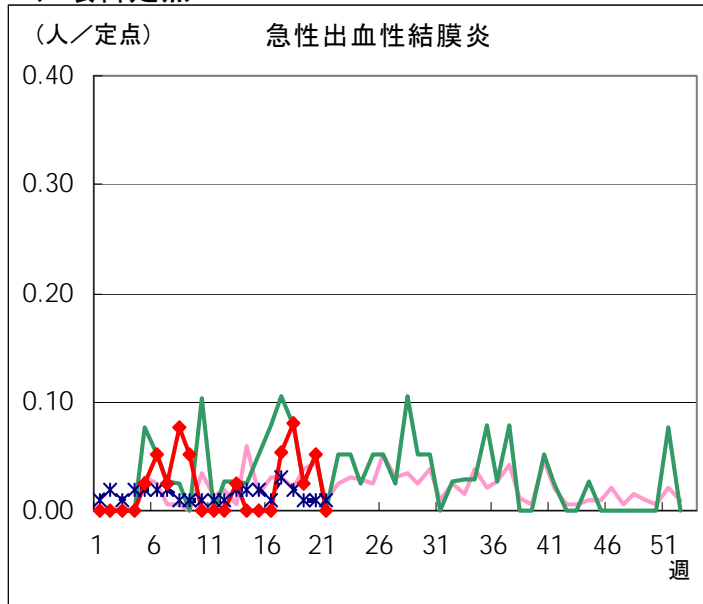
◆ 小児科定点



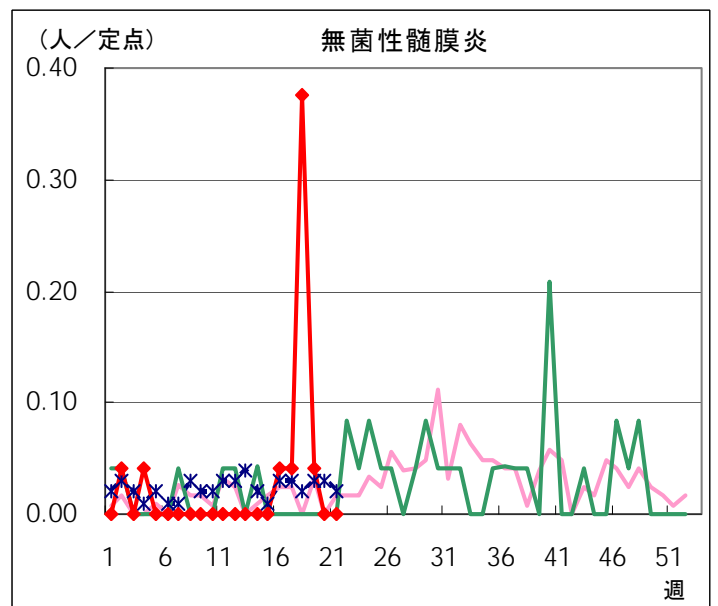
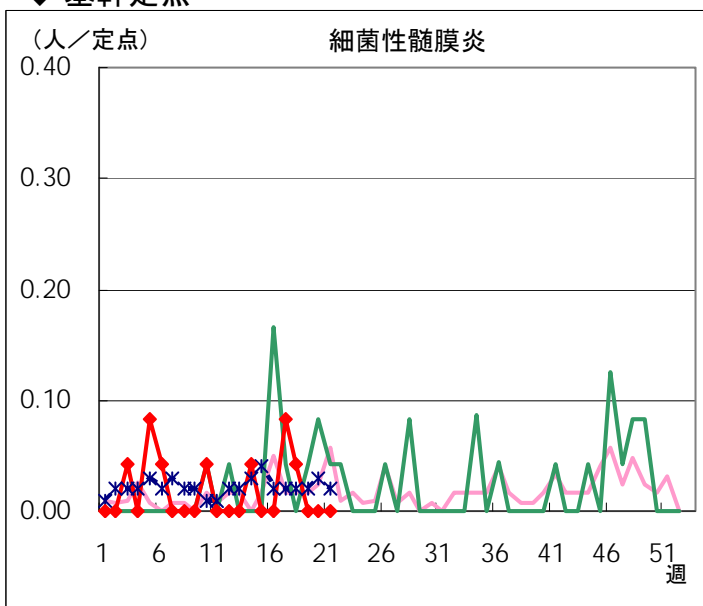


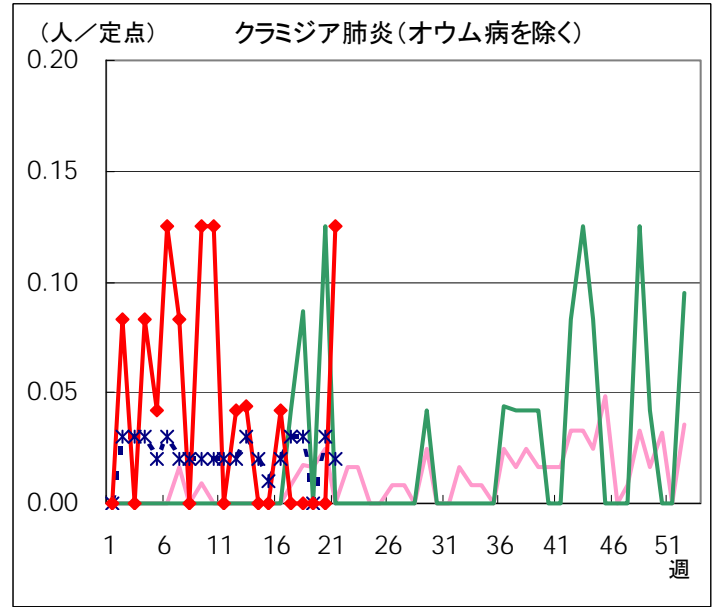
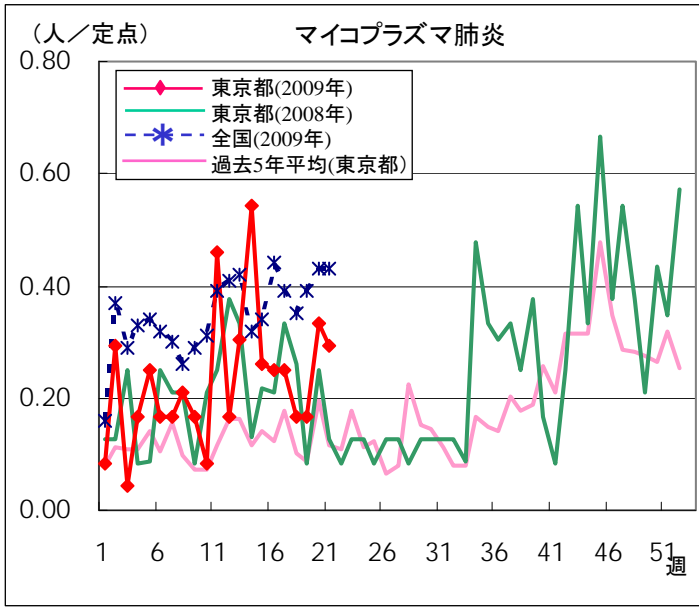


◆ 眼科定点

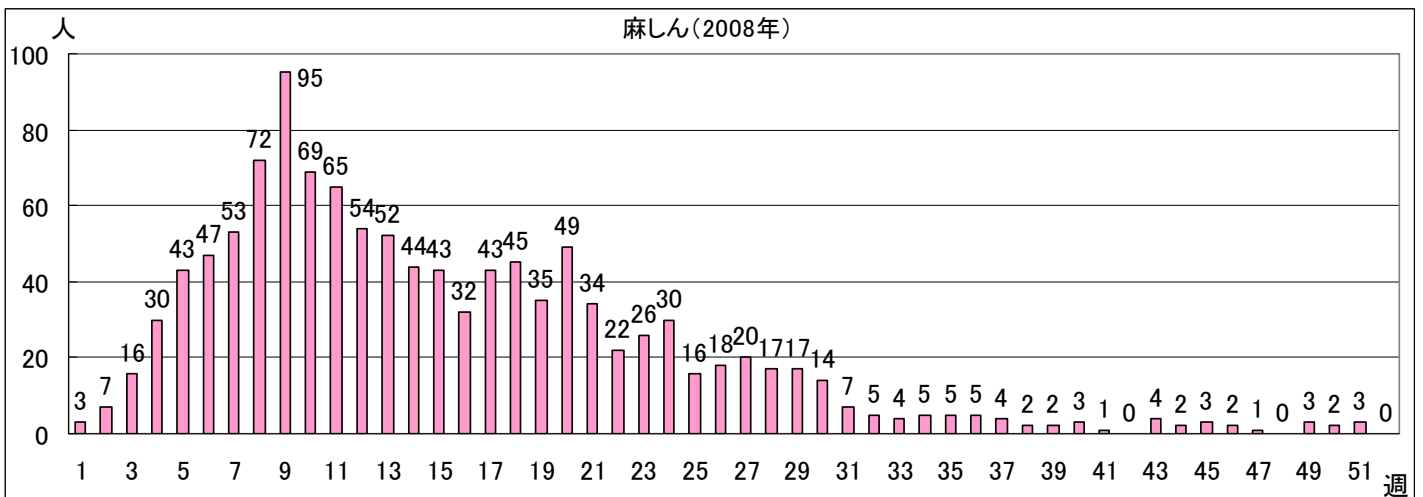
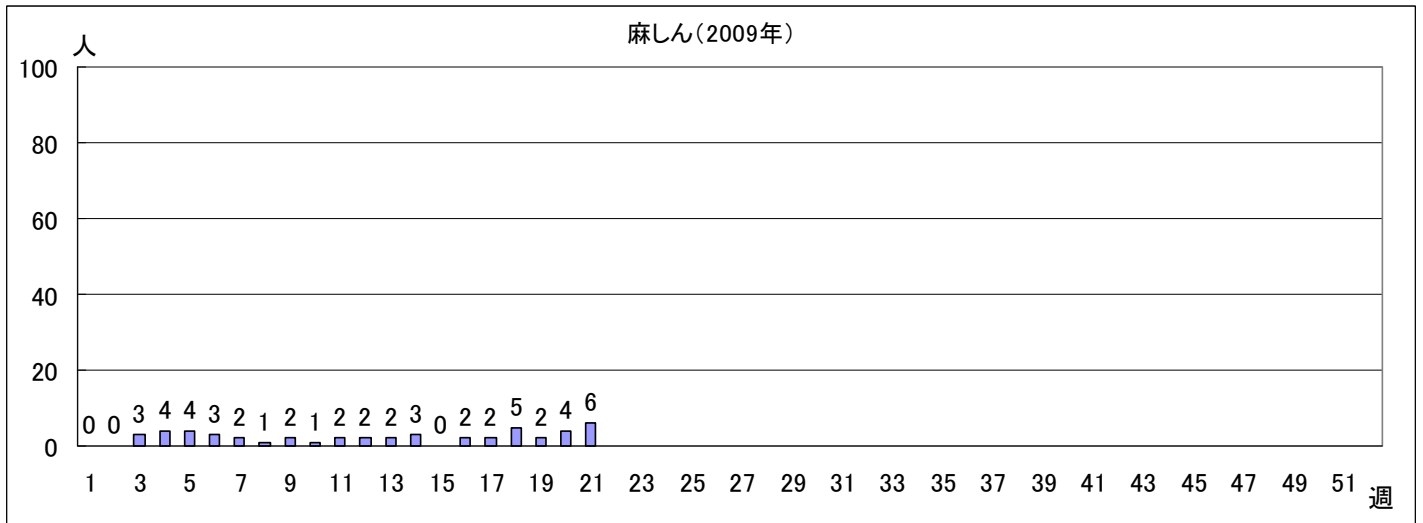


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年21週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果をいただきましたので、医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ迅速診断結果		
	A型	B型	A型およびB型
みなと		1	
		1	
江東	1		
	1	5	
		1	
大田区		2	
	1	1	
		2	
		1	
世田谷区	1	2	
		1	
中野区		1	
		2	1
杉並		1	
		4	
池袋		1	
		1	
西多摩		1	
		2	
多摩立川		1	
		3	
多摩小平	1		
		2	
	1		
八王子市		1	
	2	1	

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/21	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	遺伝子
4/21	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	
5/7	気管支肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/9	突発性発しん	11M	糞便	ヒトヘルペスウイルス6型	
			咽頭拭い液		
5/9	急性咽頭炎	9M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/11	水痘	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
5/11	肝機能障害	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
5/11	髄膜脳炎	27	髄液	エンテロウイルス	
			咽頭拭い液	EBウイルス	
5/11	気管支炎	6	咽頭拭い液	エンテロウイルス サイトメガロウイルス	
5/11	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	
5/11	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
5/12	感染性胃腸炎	2	咽頭拭い液	ノロウイルス	
5/12	肝機能障害	9M	咽頭拭い液	アデノウイルス サイトメガロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
5/12	感染性胃腸炎	5M	糞便	ノロウイルス	
5/12	急性上気道炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス	
5/13	フレグモーネ	2	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/13	不明発しん症	4	咽頭拭い液	EBウイルス	
5/14	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
記載無し	不明発しん症	3	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	

◇定点医療機関から搬入された検体の遺伝子検査法による亜型

亜型検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	swH1
20週	0	3	5	0
今シーズン累計	223	109	102	0

* swH1: 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/HINI)

オセルタミビル(タミフル)耐性ウイルス株の検出状況

5/27現在

調査方法	A/H1N1分離株	耐性株
感染症発生動向調査	33	33
学級閉鎖等	20	20

詳しくは<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/flu/>を参照下さい。

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年							
		13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週
ウイルス	アデノウイルス	10	3	9	4		3	3	5
	ライノウイルス	7	1	6	2		3	1	3
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	2	2	3	1		6	2	4
	単純ヘルペスウイルス				1		2	1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス			1					
	ヘルペスウイルス6/7	4	3	5	6		1	2	1
	EBウイルス	2	4	5	3		2	1	2
	サイトメガロウイルス			2	1				2
	ムンプスウイルス	8	3	8			4	1	
	麻疹ウイルス				1				
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス								
	ノロウイルス	3		2	1				7
	ロタウイルス	1	1	2	4		2	3	
インフルエンザウイルスAH1		1	3	2			1		
インフルエンザウイルスAH3		2	2	1			2	3	
インフルエンザウイルスB	8	6	7	8	1	1	3	5	
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス			3	2		1		1	
細菌	カンピロバクター			1	1			1	
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌			1			4		
	その他の細菌	1	1	1					
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年13週～2009年20週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	67	31	33	52	49	1	7	5			2	28	29				90	
ウ イ ル ス	アデノウイルス	1	4	8	7						1	4	4				8	
	ライノウイルス		3	6									10				4	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	1	1	3	1	9						1						4
	単純ヘルペスウイルス		1			2												1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス											1						
	ヘルペスウイルス6/7		1		1	2						5	6					7
	EBウイルス		1			2						1	4	1				10
	サイトメガロウイルス			1								3						1
	ムンプスウイルス					4								17	2			1
	麻しんウイルス												1					
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19																	
	RSウイルス																	
	ノロウイルス				10								1					2
	ロタウイルス			3	10													
インフルエンザウイルスAH1	7																	
インフルエンザウイルスAH3	10																	
インフルエンザウイルスB	35	2															2	
デングウイルス (抗体を含む)																		
その他のウイルス		2	4	1														
細 菌	カンピロバクター				3													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌						5											
その他の細菌		1					1										1	
その他の病原体																		

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2009年4月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	108	1.96	55	55
		女	82	1.49		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	41	0.75		
		女	30	0.55		
	尖圭コンジローマ	男	47	0.85		
		女	27	0.49		
	淋菌感染症	男	58	1.05		
		女	10	0.18		
	膣トリコモナス症 *	男	1	0.02		
		女	11	0.20		
梅毒様疾患	男	7	0.13			
	女	1	0.02			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	72	3.00	24	24
		女	47	1.96		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	31	1.29		
		女	21	0.88		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	2	0.08		
		女	0	0.00		
2009/5/15						

* 性感染症定点から報告される『膣トリコモナス症』とは、原虫の一種である膣トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膣、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2009年4月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	5			1		
20～24歳	14	4	3	12		
25～29歳	19	4	9	11		1
30～34歳	24	9	12	9		1
35～39歳	13	7	7	10		1
40～44歳	15	4	5	8		1
45～49歳	7	6	3	3		1
50～54歳	3	3	5	2		
55～59歳	5	2		1		1
60～64歳	2	2	1		1	
65～69歳	1		2			1
70歳～				1		
合計	108	41	47	58	1	7
先月数	81	47	40	68		5
増減数	27	-6	7	-10	1	2

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	7			2		
20～24歳	28	4	9	4	3	
25～29歳	23	7	10	3	2	
30～34歳	14	3	1	1		
35～39歳	7	7	4		2	
40～44歳	2	4	3			
45～49歳	1	1			3	
50～54歳		2				
55～59歳					1	
60～64歳						
65～69歳		1				
70歳～		1				1
合計	82	30	27	10	11	1
先月数	87	30	22	12	8	
増減数	-5		5	-2	3	1

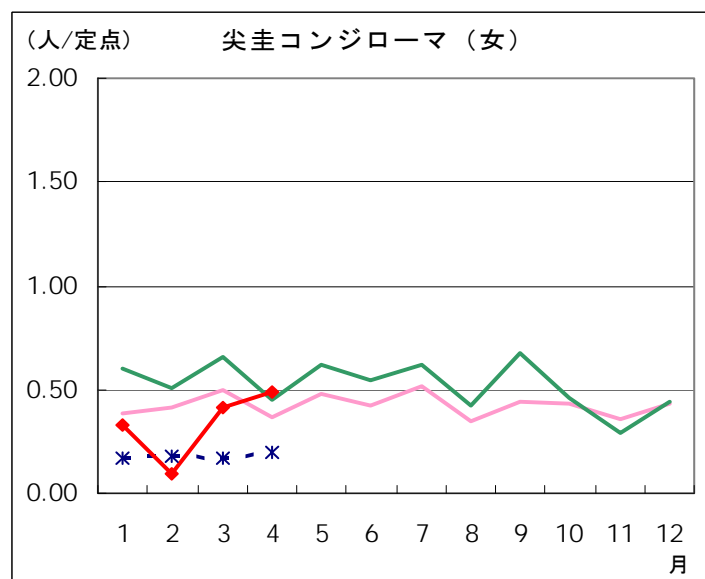
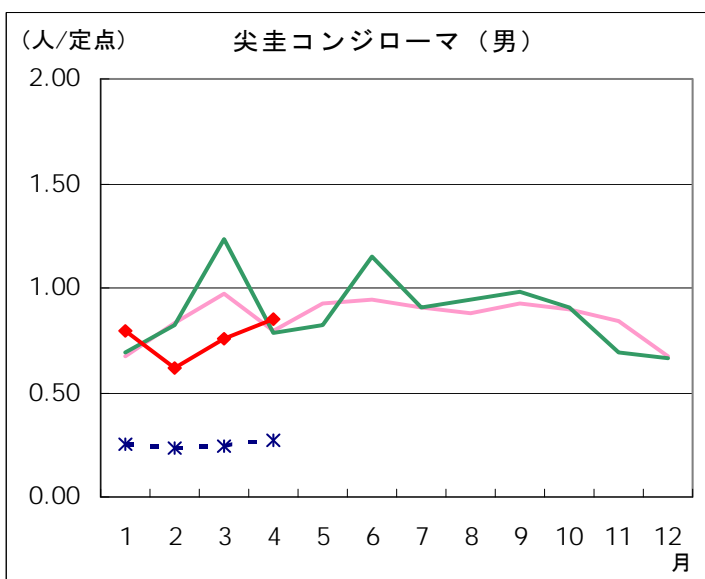
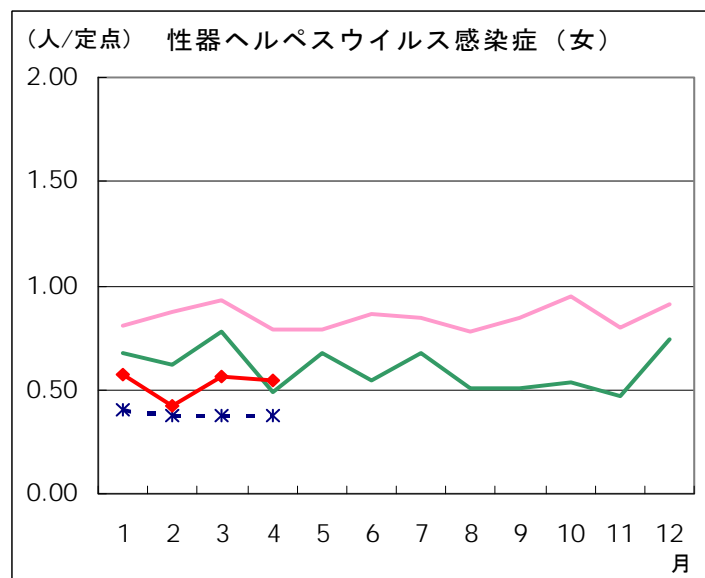
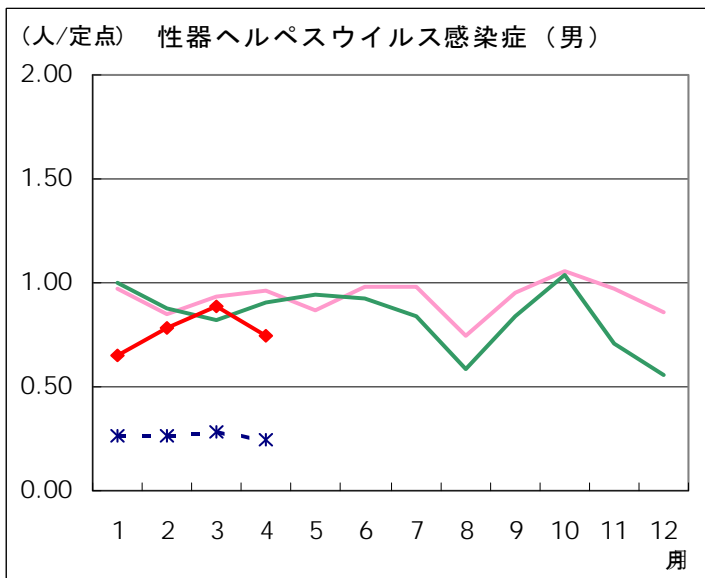
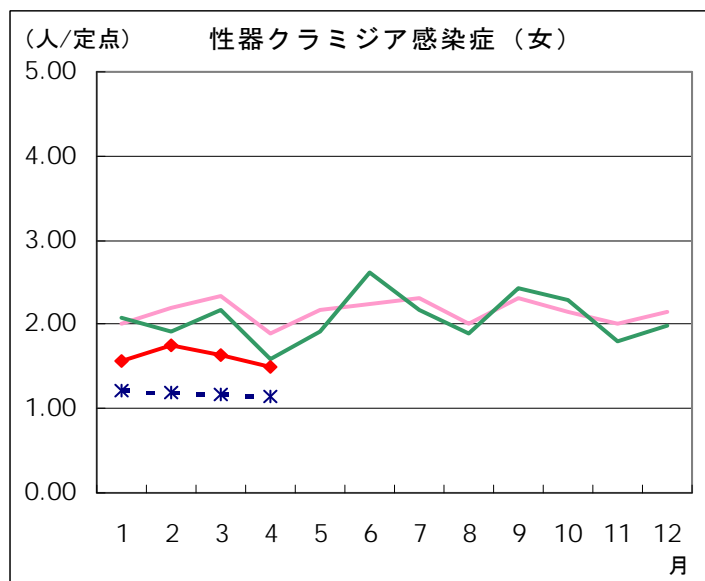
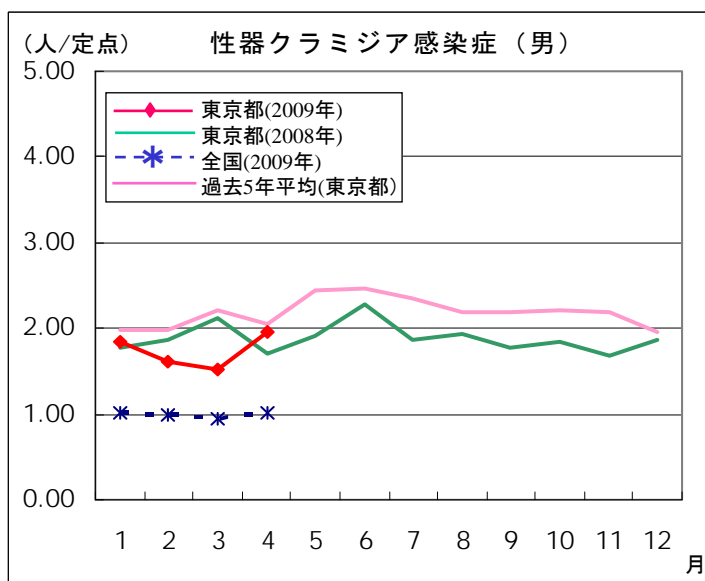
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2009年4月

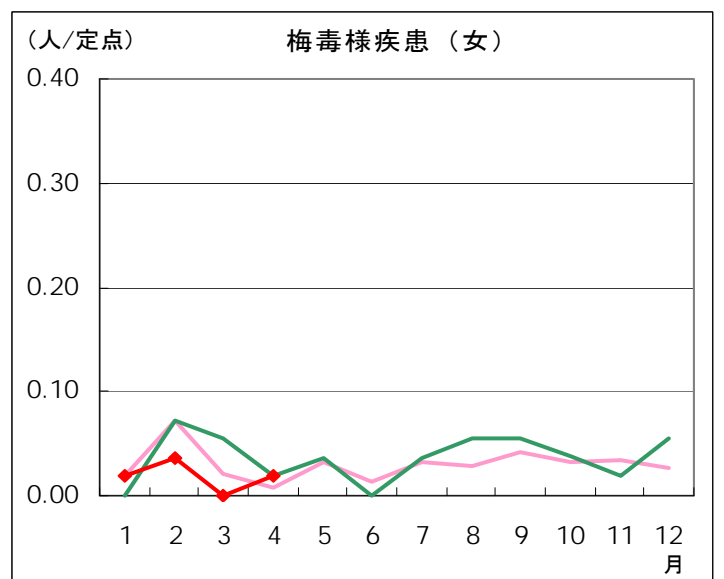
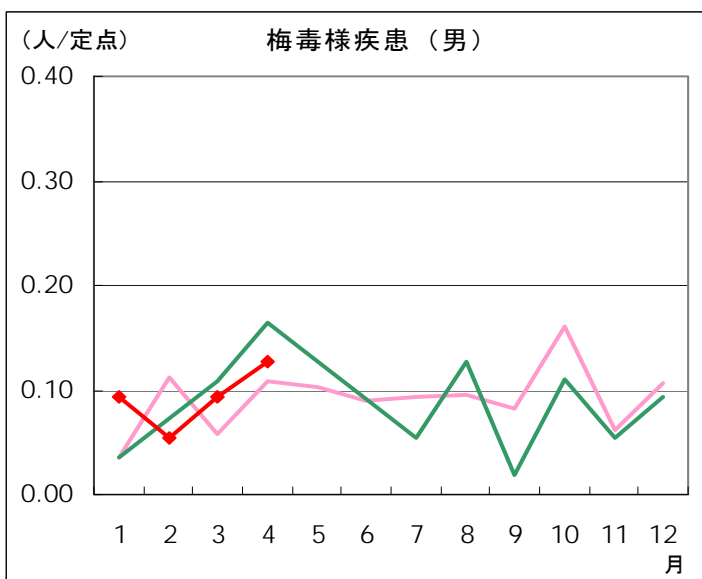
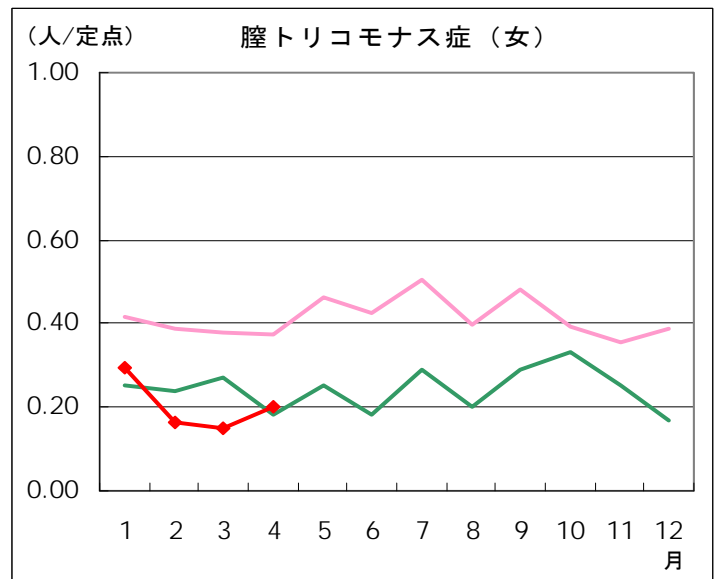
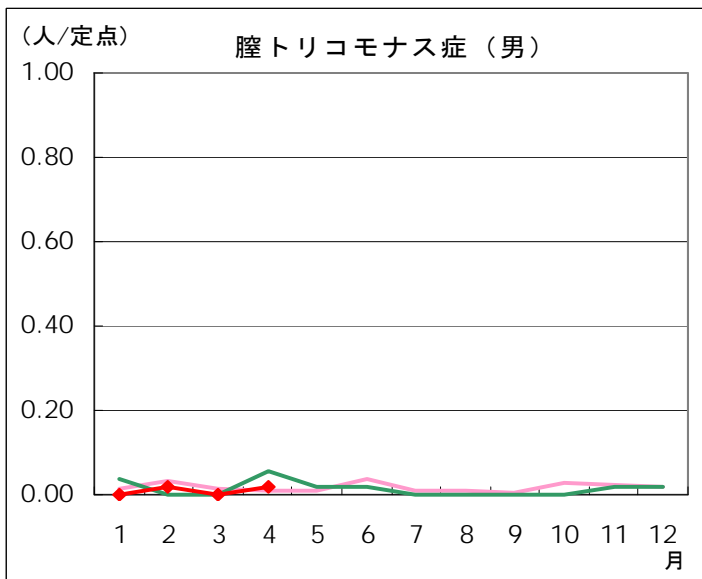
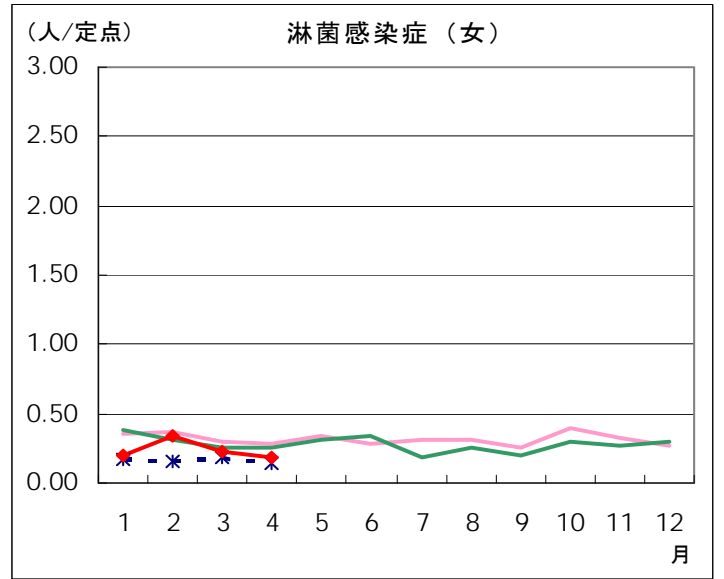
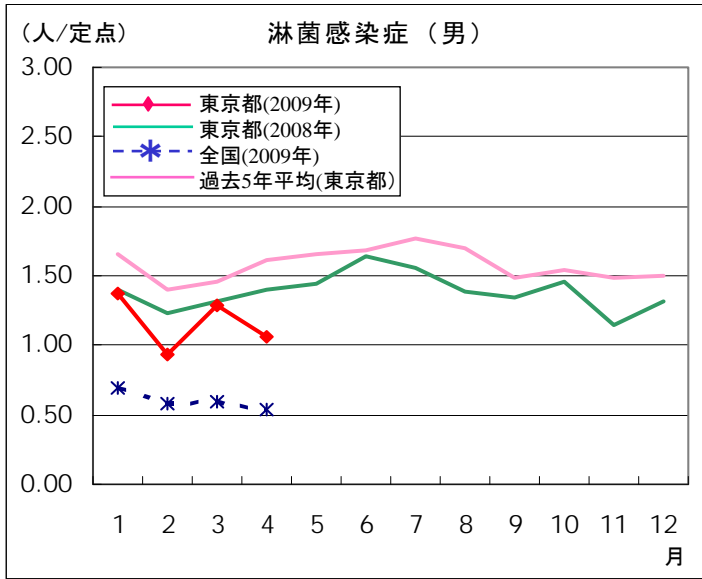
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	8	5	4	10		2
中央区	3	5			2		
みなと	2	7	4	2	1		
新宿区	7	30	17	25	19		3
文京	1	1			2		1
台東	2						
墨田区	2	3		1	2		
江東区	2	12	4	7	5		
品川区	1	1					
大田区	2	2			1		
渋谷区	5	6	3		4		
中野区	2	4			2	1	1
杉並	2	3					
池袋	3	14	6	6	3		
北区	1	1	1	2			
荒川区	1						
板橋区	2	2					
足立	2	3	1		3		
江戸川	2	5			3		
八王子市	4						
町田	1						
多摩立川	2						
多摩府中	3	1			1		
多摩小平	1						
合 計	55	108	41	47	58	1	7
定点当たり		1.96	0.75	0.85	1.05	0.02	0.13

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	1					
中央区	3						
みなと	2	4	4	2			
新宿区	7	10	7	7	1	1	
文京	1				1		
台東	2	2	4				
墨田区	2	2		2			
江東区	2	1				1	
品川区	1						
大田区	2	5					
渋谷区	5	5	7	8			
中野区	2	4		1	1	2	
杉並	2						
池袋	3	10	3	2	2	1	
北区	1						
荒川区	1	1					
板橋区	2	8	1			2	
足立	2						
江戸川	2	10	1		3	1	
八王子市	4	6	1	3		1	1
町田	1			2		1	
多摩立川	2	11	2		2		
多摩府中	3						
多摩小平	1	2				1	
合 計	55	82	30	27	10	11	1
定点当たり		1.49	0.55	0.49	0.18	0.20	0.02

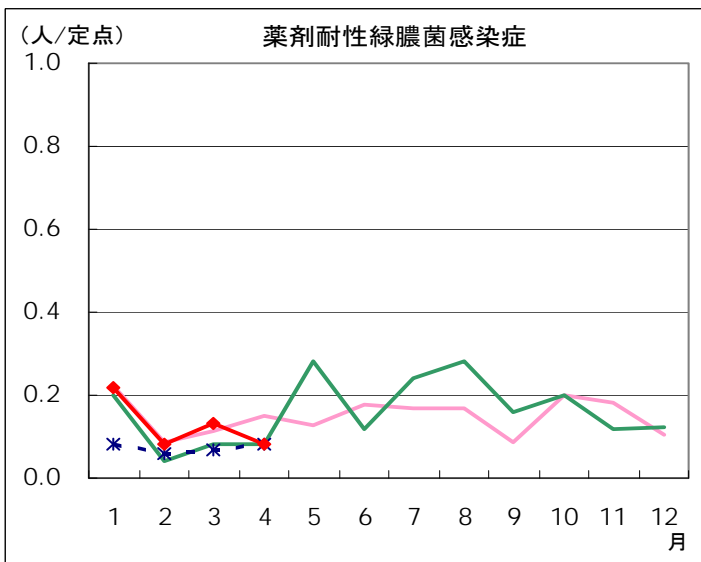
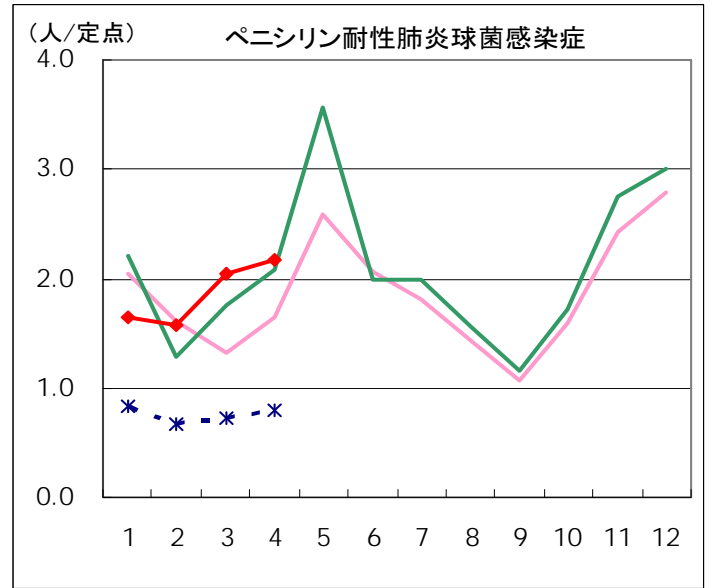
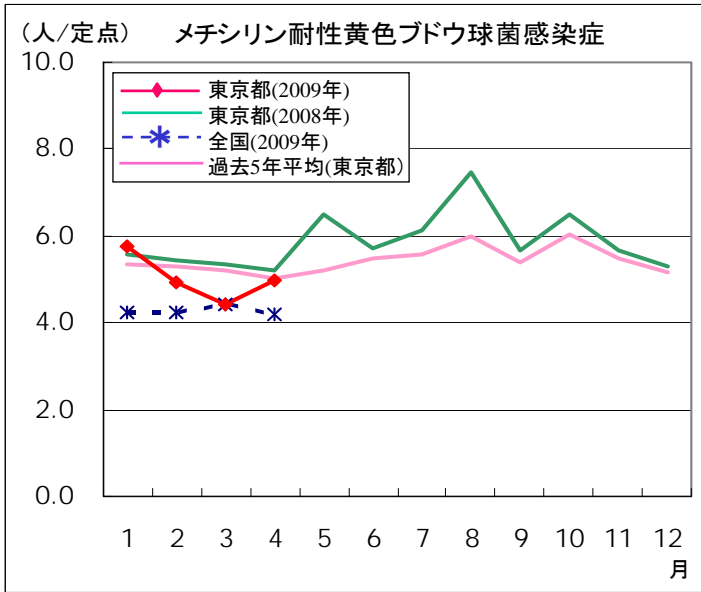
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2009年4月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
4/2	淋菌性尿道炎	32	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア、淋菌	遺伝子 分離同定
4/7	陰茎コンジローマ	51	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス11型	遺伝子
4/8	性器ヘルペス	31	男	その他	ヒト単純ヘルペスウイルス1型	
4/10	膣炎	17	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア、 <i>Candida albicans</i>	遺伝子 分離同定
4/13	陰茎コンジローマ	26	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	遺伝子
4/13	尿道炎	37	男	尿	クラミジア	
4/14	尿道炎	41	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア、淋菌	遺伝子 分離同定
4/16	尿道炎	45	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア、淋菌	
4/17	トリコモナス膣炎	38	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	トリコモナス	遺伝子
4/20	陰茎ヘルペス	46	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス1型	
4/20	陰茎コンジローマ	41	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	
4/22	性器ヘルペス	31	男	その他	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	
4/23	尿道炎	30	男	尿	クラミジア	
4/23	尿道炎	29	男	尿	クラミジア	

<感染症豆知識>

細菌性髄膜炎

「都内の4ヵ月になる男児が前日から不機嫌で、翌日午後4時に39度の熱を出した。午後7時、小児科医院受診。目つきが陰しく大泉門の膨隆が認められ、白血球数2600、CRP5.8。髄膜炎疑いで総合病院小児科に紹介。入院時の髄液検査で細胞数2万近くあり、細菌性髄膜炎と診断され直ちに治療を開始。起因菌はインフルエンザ菌で、3週間の入院治療で幸い後遺症なく退院した」。以上は早期診断治療が奏功した乳児の細菌性髄膜炎の実例である。細菌性髄膜炎は年間500～1000人が発症する重篤な神経救急疾患である。好発年齢は5歳以下で、新生児と乳児が大半を占める。成人は70歳以上が多い。原因菌は新生児と3ヵ月未満はB群溶連菌、大腸菌、リステリア菌、3ヵ月以降は肺炎球菌、インフルエンザ菌、成人は肺炎球菌、髄膜炎菌が多い。発熱、頭痛、嘔吐と項部硬直等の髄膜刺激症状が特徴的である。しかし年齢が低いほど哺乳不良や不機嫌等、症状は非特異的で、常に髄膜炎を除外する事が大切である。病状が電撃的に悪化する例があり、治療の遅れ、耐性菌の出現等で、予後は悪い。死亡率は未治療でほぼ100%、治療しても5～25%と高く、水頭症、癲癇、発達障害など後遺症が10～30%に残る。ワクチン接種が最も有効な手段である。米国でインフルエンザ菌B型(Hib)ワクチン、7価肺炎球菌ワクチンが定期接種となり細菌性髄膜炎が激減した。日本では昨年12月よりHibワクチンが任意接種となったが、7価肺炎球菌ワクチンは承認申請中である。

(文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子)